

# エルム

エルム第3号

発行 / 医療法人北榆会  
札幌北榆病院

編集 / 広報委員会  
責任者 / 久木田和丘  
発行日 /

平成11年10月10日

ふだん見過ごしがちな病院の回りにある木々もよくみると緑がくすんできて本格的な秋がそこまでやってきている事を教えてくれます。

東棟の3階と西棟の4階を結ぶ渡り廊下の窓に飾られた人形も衣替えをしたようです。

病室の窓から季節を感じる事が出来たら、と思うのですが、地下鉄白石駅の近くというこの病院の場所では少し難しいようです。

当院では快適な入院生活をしていただくための環境整備を行っております。このたびベットの回りの設備などはどの部屋でも同じにしたいという基本方針からすべて新しい床頭台に更新し統一いたしました。

病室から見える景色はそれぞれの部屋で異なっていますが、病室の内部の景色は同じになりました。

これからも設備の充実を図って参りますのでご意見ご希望がありましたら係りまでお知らせください。

## 循環器科診療の充実

当院では今年の夏から循環器科の充実を図り診療日を増やしました。

ペースメーカーの移植術・大動脈バルーン法などの施行も行っております。

来院されたとき症状から何科を受診したらよいのか分からない。こんな時は受け付けの案内担当の看護婦をはじめ職員にお気軽に声をおかけください。

### 札幌北榆病院の基本方針

- 1 患者さんに公正な医療を提供します。
- 2 患者さんの権利を尊重し、分かりやすい医療を行います。
- 3 患者さんの安全を保証し、快適で安心して治療に専念できる場を提供します。
- 4 高度医療を積極的に推し進めます。

今年の春、学校を卒業し札幌北榆病院で働き  
始めた新人看護婦さん達も半年間が経ち、  
働く事に対して不安のあった新人研修の時と違  
い、今ではすっかり仕事に慣れた様子です。

## スタートによせて 第3病棟

米田 さやか

とうとう私も看護婦という職業に就くことが出来ました。今までは学生という立場で責任の重さも今ほどではなく、のほほんと過ごしてきたように思います。



この四日間は、ほとんど話を聞くほうが多かったので、まだ仕事をしているという感覚ではないのは当り前の

ことですが、本当に自分は看護婦として働いていけるのか...という不安でいっぱいです。明日からは病棟に配属され本格的に業務を行うことになるので、一生懸命行いたいと思います。

私が目指したい看護は、いつでも相手の立場にたって物事を考えていくことと、自分の言動を振り返り反省して自分自身を向上させていくことです。

これが看護と言えるのかどうか分からないのですが、学生だった頃に実習でひたすら患者さんが、「こうなってくれたらいいなあ」と思うばかりで、そうなるためには、自分がどうすればよいのかを十分に考えることが出来ずにいました。

その時、担当の先生に、「思うばかりでは何も変わらないし、患者さんは変わったあなたを見て協力してくれるものなのよ。」と教えて頂きました。

それから、少しずつではありましたが、患者さんに変化が見られてきたので、自分自身が変わっていくことは大切な事なんだと実感し、常にそのような気持ちを持ち続けていきたいと思いました。又、患者さんは、自分の鏡であるという事もいわれています。自分がされて嫌だなと思う事はしたくないし、して欲しくないのは当り前の事だと思いますが。

その当り前の事でも、気を付けていても知らず知らずしているかもしれないので、相手の立場にたって物事を考えられるようになりたいと思いました。

これから病棟へ行き、勉強する事や覚える事が沢山ありますが、いつでも「初心忘れるべからず」を忘れずに頑張りたいと思います。

(本年4月新人研修を終えて)

## 半年を振り返って

就職してもう半年が過ぎました。仕事を覚えていくことで毎日毎日精一杯で、正直言うと患者さんの事をあまり考えている余裕はありませんでした。

いろんな事つまづいたり失敗するたびに嫌になりました。患者さんを援助し

なければならぬ立場にあるのに、逆に励まされ援助されている様な感じで、患者さんに申し訳ないと思う反面とてもうれしくてまた頑張ろうという気持ちになります。

病んでいる時は励ましの言葉がこんなにも活力になるんだな痛感し、私もこれから患者さんたちを元気づけてあげたいと思っています。

## 看護婦として・・・

### 第6病棟

佐藤 はるか

私は、この四月から“看護婦”として患者さんと接するにあたり、今までよりも責任感という事を大切にしていかなければならないと感じています。

今までだったならば、「学生だから分かりません、出来ません。」と言っていた事も、すべて自分の責任で行わなければならないし、今までは行ってはならなかった処置なども実際に自分の知識と技術を用いて行っていかなくてはなりません。

もちろん、看護婦として働くようになったからといって、すぐに今まで以上の技術が身に付いたり、患者さんの事がすぐに理解できたり、関係づくりが出来るわけではないことも、十分にわかっています。しかし、少しでも早く病棟・仕事に慣れ、自身を持って働いていけるように“努力する姿勢”、“学ぶ姿勢”は大切にしていきたいと思っています。分からないことは先輩の方に積極的に聞き、自分から沢山のことを

吸収出来るように行動していきたいと思っています。何かを学びたいとき、得たい時には、受け身ではなく自分から進んでいくことが大切だと思うので、何事にも“積極性”を持っていきたいと思っています。

はじめは、慣れないことなどから疲れてしまったりすることもあると思いますが、患者さんと接する時には笑顔や優しさを忘れないようにしていきたいです。

また、業務におわれ、ゆっくりとコミュニケーションを取る時間は少なくなってしまう場合もあると思いますが、限られた時間の中でも患者さんを良く観察し、今どういうことを求めているのか、こういった不安があるのかをきちんと把握できるよう関わっていきたいと思います。

患者さんについて理解できていなければ、適切な看護は出来ず、思いやり



の気持ちも患者さんに届かないと思います。学生時代は一人の受け持ち患者さんとじっくり関わられたため思いを聞き出したり、信頼関係も作りやすかったと思いますが、これからは複数の患者さんについて同時に考えていかなければなりません。

初心を忘れないように、一人一人の患者さんを少しでも深く理解し、細かなケアができるように努力していきたいと思います。

学生時代に学んだことを活かし、常に患者さんが中心であることを意識しながら、今まで以上の責任感を持ち、努力していきたいと思います。

(本年4月新人研修を終えて)

## 半年を振り返って

看護婦として北榆病院に勤務してから半年が経とうとしています。

はじめは病院のこともわからず、看護婦としての仕事も一人では満足に出来ませんでした。今はようやく病院のこともわかり、一人でも安全・確実に出来る仕事も増えました。

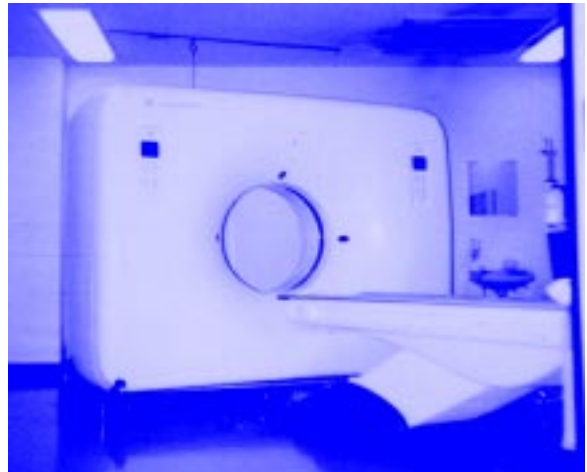
しかし、まだまだわからないこと、一人では不安なことも多くあり、先輩たちに指導していただきながら更に多くのことを習得しようと日々頑張っています。私自身は看護婦一年目であっても、患者さんや御家族にとってみれば一年目も二年目も関係なく、信頼し安心して身をまかせたいという気持ちを看護婦に対して持っていると思います。

そのような気持ちを常に心に受け止めながら、患者さんの声が聴こえる看護婦として、これからも頑張りたいと思います。

## 病院紹介シリーズ第3回

### 放射線科

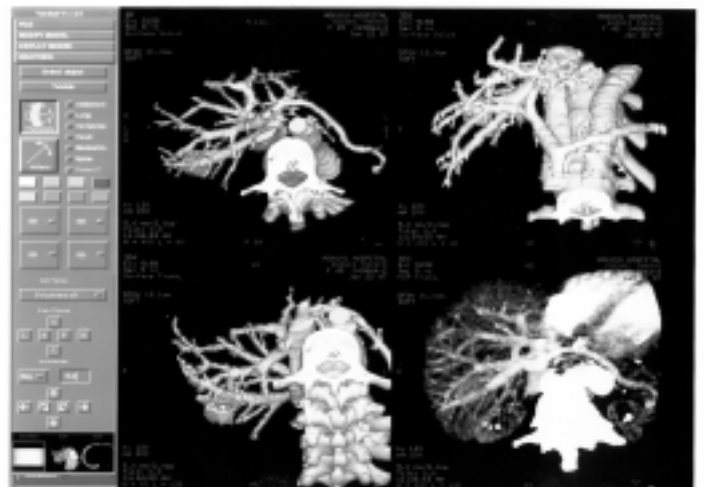
高度先進医療というと、良く放射線科の機器が登場いたします。放射線科の機



CTコンピューター断層装置

器は大きく、部屋の構造そのものから造らなければなりませんし、ほとんどの機器はコンピューターで制御され、一見して高度先進医療の担い手を感じさせます。

描出された画像も一昔前では想像も出



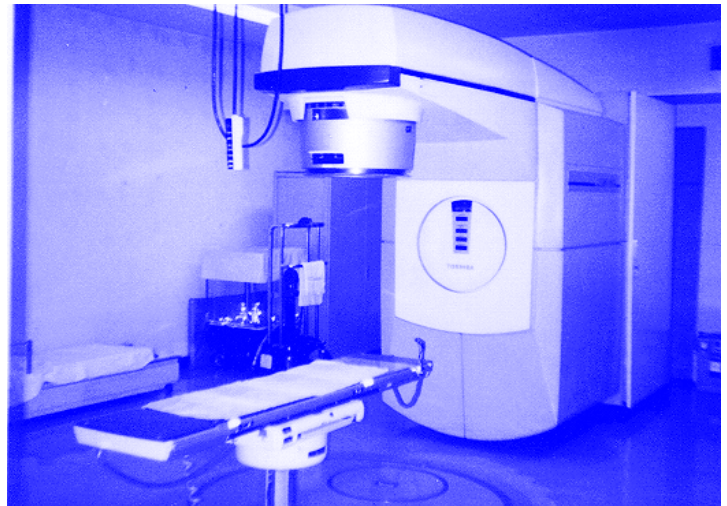
CT装置で解析した腹部血管の立体像

来なかった程鮮明になり、画像解析ソフトの開発が進み、より多くの情報を得ることが出来るようになりました。

しかし、これらは先進医療機器というだけであって実は高度先進医療とは異なるものです。

技術の進歩が、検査時の患者さんに対する苦痛を少なくし、細部にわたる病気の状態を表してくれます。それをどのように判断し如何に最善の医学的治療を行い、そして一日も早く退院していただくか。これが高度先進医療と考えます。

当院の放射線科もCT（コンピューター断層診断装置）MRI（核磁気共鳴診断装置）RI（核医学検査装置）など、大きな規模の病院ならおおむね導入している装置はすべて備えてあります。そして最大の特徴として民間病院でありながら放射線治療装置を導入しているという



放射線治療装置

ことです。

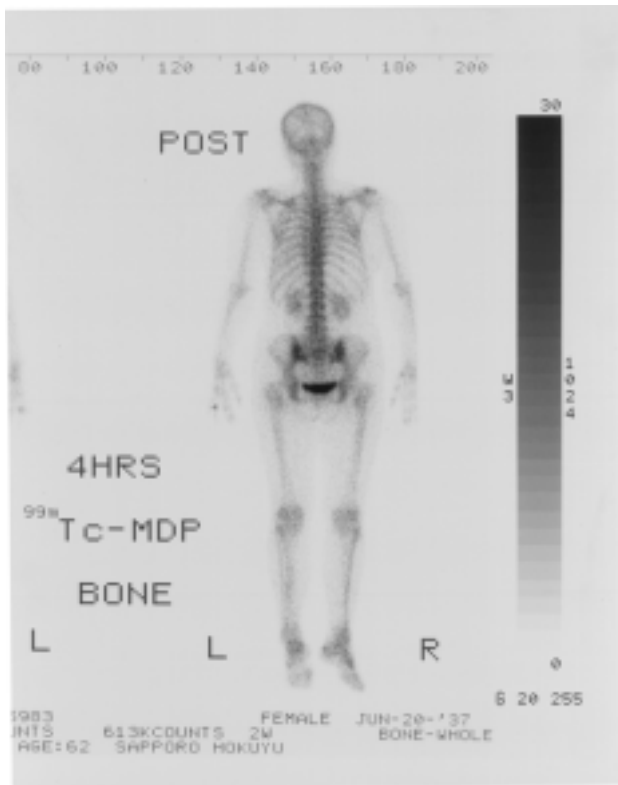
それぞれの細胞の放射線に対する感受性の違いを利用し、患部に存在する病的な細胞だけを壊滅させ、周辺の正常組織には放射線をあてないようにする。

この放射線治療を実施してゆくためには、厳密な機器の管理、調整、そして繰り返し行われる模擬照射と実際の照射との比較検証が必要となります。

このように放射線治療装置の維持管理や放射線治療の実施には人的にも設備的にも病院にとっては大変なもので導入は自ずと敬遠されるのです。

しかしこれにより、患者さん毎に異なる病理、病態、また社会的背景まで考慮した多岐にわたる治療の選択が可能になるのです。

検査部門でもある放射線科は皆様の診断治療に必要な的確な情報をより早く提供することで当院の”高度先進医療”の一翼を担っているのです。



核医学検査による全身の骨の写真

放射線科部長 : 久木田 和丘  
診療放射線技師長 : 濱田 敏克

# 当院における

## ユニークな診療

通常の診療科目の中でも専門を活かし特色のある診療を行っています。

### スリープ外来

睡眠中に何回も息が止まると脳が『呼吸しなさい』と信号を出すため、何度も起きてしまいます。

しかし本人は呼吸の停止や夜中の目覚めにほとんど気がつきません。このような状態を睡眠時無呼吸症候群とい

い、昼間に眠かったり、集中力が落ちたりするばかりか、高血圧、不整脈、心筋梗塞、脳梗塞などの合併症が数倍多く、睡眠時の突然死の原因にもなります。

この診断には、当院に一晚泊まっていたいただき、

ポリソムノグラフィーという検査により睡眠中の脳波、心電図、筋電図、呼吸運動、血液中の酸素の量を調べます。そしてその結果により最適な治療方法を選択いたします。

### 禁煙外来

たばこの害についてはもうここで述べるまでもありません。

しかし、禁煙を始めると無性にたばこが吸いたくなったり、イライラしたり、怒りっぽくなったり、集中力が落ちたり、等大変不快に感じ再喫煙してしまうことが多いようです。これがニコチンの正体なのです。調査によると60%以上の方が禁煙に何度も失敗しています。

自分ひとりで悩まないで、こういったニコチン依存から抜けたいというあなたの意志を専門の医師がお話を伺ったり特殊なガムを利用したりしてサポートし、タバコを必要としない生活にかえてまいります。



味覚の秋がやって参りました。北海道に住んでいることの幸せを一番感じる季節です。このたびエルム第3号を発行することが出来ました。はじめにご紹介しましたように床頭台の入れ替えとナースコールの機器の更新も終わりました。着実な設備の整備に併せこの紙面も充実するよう努めて参ります。  
濱田 記

医療法人北楡会 札幌北楡病院

診療科目：外科・内科・消化器科  
呼吸器科・整形外科・循環器科  
眼科・歯科・麻酔科・放射線科

住所：〒003-0006

札幌市白石区東札幌6条6丁目  
5番一号

TEL：011(865)0111